

2026年 1月度 売上速報

■ 百貨店事業

阪急阪神百貨店	売上高前年比(%)
阪急本店	100.8
阪神梅田本店	136.2
支店計	101.5
全店計	104.2

※2022年3月期より「収益認識に関する会計基準」を適用しておりますが、月次の売上速報および営業概況につきましては、当該基準等適用前の取扱高で開示しております。

○ 全店の概況

- 1月に入り最高気温が10度を下回る日が増え、重衣料を中心とする冬物ファッションの動きが好転し、加えて各店催事・イベントの活況により、国内客の売上高は前年に対して約1割増と好調。これにより、阪急本店の大型改装に伴う売場閉鎖や、航空便数減少に伴う中国からのお客様の免税売上高の大幅な減少といったマイナス要因をカバーし、都心店計、郊外店計、全店計いずれも前年の売上高を上回った。
- インバウンドについては、中国からのツーリスト客の免税売上高が前年の約6割減と依然厳しい状況が継続。一方で、中国の海外VIPの免税売上高は前年を上回り、中国以外からのお客様の売上高も前年を上回ったが、中国ツーリスト客の影響が大きく、全体の免税売上高は約2割減だった。
- 阪神梅田本店は、前年の改装による好調が継続し、ファッション・ライフスタイルカテゴリーは前年売上高に対して約3割増、食品も約1割増といずれも高伸した。また、前年は改装中のため実施できなかった大型催事も大きな嵩上げとなり、全体として前年売上高に対して約4割増と高い伸びを示した。

○ 阪急本店の概況

- 6階の閉鎖など全館の大型改装に伴う売場縮小のマイナス影響や、免税売上高の減少が継続する中、国内客売上高および店舗売上高ともに1月として過去最高を更新した。
- 3日の初売りは開店前に多くのお客様が並ばれたため予定より30分早めて開店。免税売上高は前年を下回る水準だったが、国内客の売上高が前年を上回り好調。全館の売上高、来店客数は前年並みと堅調な滑り出し。
- 気温の低下に伴い、コートやセーターなど冬物ファッションの動きが好調で、モードやコンテンポラリー、インターナショナルファッションは前年の売上高を上回った。また、ブライダルニーズの継続に成人のお祝い、さらには一部ブランドの価格改定前の駆け込み需要も加わり、アクセサリーの売上高は前年に対して約3割増、宝飾品は約2割増と高い伸びで全体を牽引した。また、100万円以上の高額商品の売上高も、前年に対し約2割増と高伸、全体の売上高を下支え。

※過去1年間の売上高推移

前年比(%)

	2024年度			2025年度											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月		
阪急本店	112.3	103.8	96.4	92.2	85.2	81.8	86.6	103.1	99.2	104.9	100.7	93.2	100.8		
阪神梅田本店	90.6	92.4	92.1	95.4	102.8	109.2	106.6	118.3	134.0	112.7	122.9	107.4	136.2		
支店計	101.3	98.0	97.7	95.2	95.5	92.8	94.3	104.1	99.4	102.6	102.8	97.1	101.5		
全店計	106.0	100.6	96.4	93.5	90.2	87.9	91.2	105.1	103.2	104.9	103.6	96.0	104.2		

■ 食品事業

食品スーパー計	売上高前年比(%)
既存店 計	100.9

★数値は速報値のため、確報値とは誤差が生じることがあります。

＜本件に関するお問い合わせ先＞

エイチ・ツー・オー リテイリング株式会社 メディアリレーション部 TEL:06-6367-3181